校長室だより No 2

2017 年 6 月 8 日

柏市立酒井根東小学校

http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/

校長　梅　津　健　志

プログラミング教育について

本日，４年生にプログラミング教育の授業を行いました。柏市では，他市に先駆けてプログラミング教育を取り入れ，今年度は全小学校の４年生に実施します。

授業は柏市教育委員会の IT 教育支援アドバイザーが担任と一緒に授業を行いますので，担任の先生がパソコンに不慣れでも大丈夫です。

でも，なぜプログラミング教育を行うのでしょうか？　それは，次期学習指導要領の総則に次のように書かれて，実施が義務付けられたからです。

「児童がプログラミングを体験しながら，コンピュータに意図した処理 を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動」

しかし，酒井根東小学校でプログラミングをどういう意味で取り入れるかを最終的に決めるのは校長の仕事です。私はプログラミングを取り入れていくことを次のように考えています。

保護者全体会でご説明した時に，今の小学生たちは，人工知能と共に生きる，いや人工知能に抜かれた後を生きることになるのでは，とお話しました。

人工知能の発達による変化により，６５％の子が存在しない職業につくと言われています。

今より便利にしたり，楽にしたり，楽しくしたり，人々の役に立つように，今あるものを組み合わせて，新しい価値を生み出すような仕事が，私たち人間の行う仕事になってくると考えます。

私たちの身の回りを見ても，ガソリンスタンドとコンビニとコーヒーショップが一つになって，多様なニーズに対応するといった，新しい業態が増えてきました。

プログラミングは，このように異質なものを組み合わせて，よりよい方法を見出していくような，論理的な考え方を，楽しみながら学ぶ機会の一つだと考えています。

今日はスクラッチというソフトを活用してプログラムを学びました。

これは，「右にいく」「足を動かす」「右に向く」など，命令を出すプログラムがたくさん設定されています。

例えば，子供たちには，キャラクターを画面の右下から，左上にあたかも歩いているかのように移動させるといったミッションが与えられます。様々な命令のプログラムをどんな順番でキャラクターに与えていくと，一番効率よく，カッコよく，ミッションを達成できるか，一人一人が考えて，プログラムを組み合わせて，キャラクターに命令していきます。この命令の組み合わせが基幹となるプログラムを作ることになります。動きは同じでも，命令の組み合わせ方が違い，一人一人の論理が見えてきます。

つまり，プログラミング教育は，プログラムを作成するプログラマーを養成するために行うのではありません。

既存の仕事や人工知能が行うことを，うまく組み合わせて世の中が良くなるようにしていくことが，今の子供たちが大人になってからの仕事になるでしょう。まさに，キャラクターにミッションを完了させるために，様々な命令の組み合わせを考えたことが，将来の仕事の基本的な考え方につながっていくのではないかと考えています。